

インド 8つの世界遺産と聖なるガンジス河の旅 2014・12/13~18 6日間

RSK OB NOBORU TAKAYA 高谷 昇

1 インド ルピー=約 2 円

1 ドル=60 インド ルピー

チップは 10~50 インド ルピー、 トイレチップは 5 インド ルピー

インドと日本の時差は -3 時間 30 分

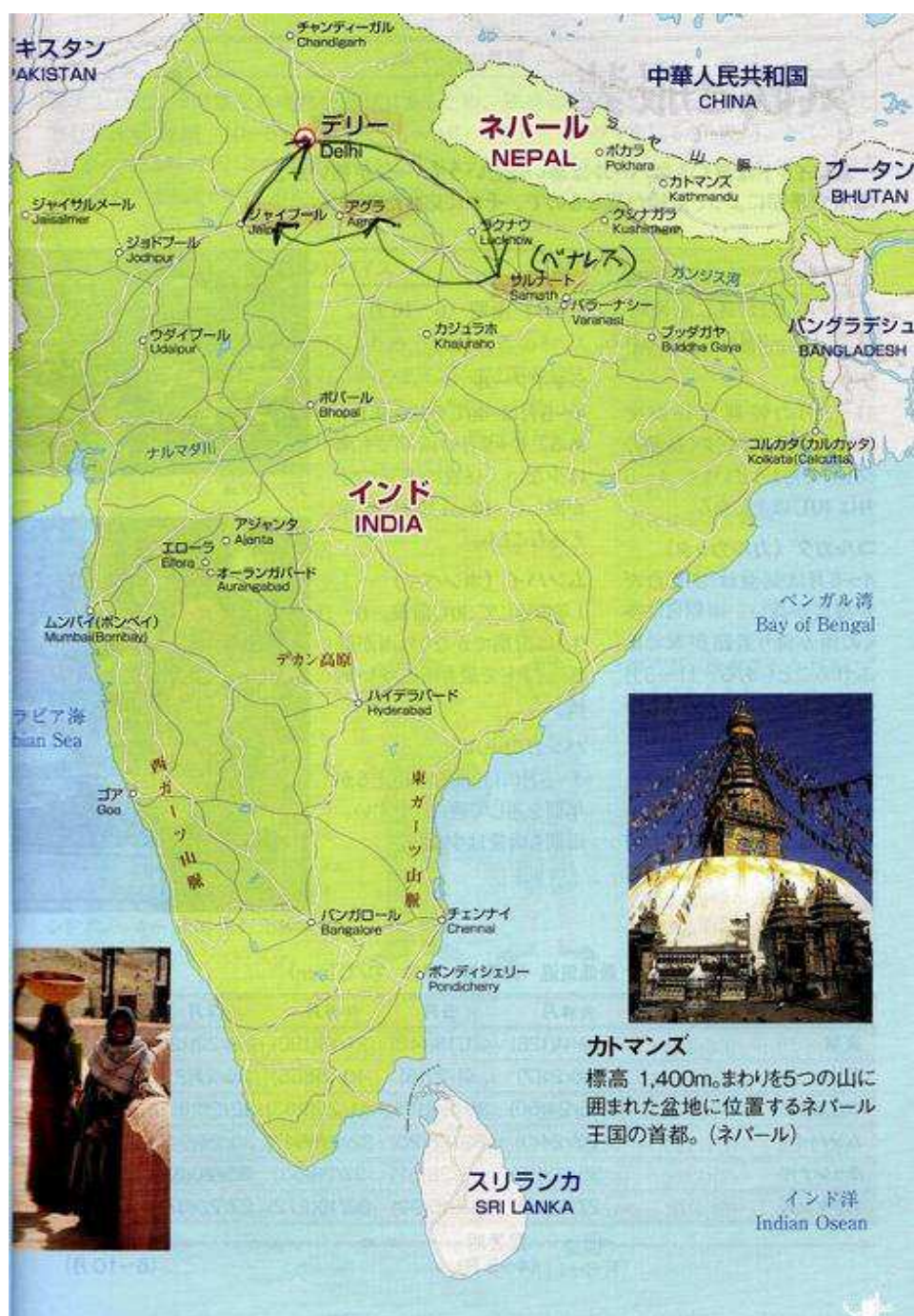
*往路 関空 → 香港 4 時間 10 分 香港 → デリー 5 時間 55 分 (計 10 時間 05 分)

*復路 デリー → 香港 4 時間 45 分 香港 → 関空 3 時間 20 分 (計 8 時間 05 分)

*インド国内線 デリー → ベナレス 1 時間 15 分

ベナレス → アグラ 1 時間 10 分

ジャイプール → デリー 1 時間 00 分



インド旅行記を簡単にさせていただきます。今回はインド北部の旅です。インドは人口12億人で中国の13億人に次いで2番目の人口です。物貰いや、ホームレスも沢山います。赤ちゃんを背負ってミルク代下さいと裸足の若い女性を多く見かけました。葬式もガンジス川河畔で町内や親戚が持ち寄った木材を積み上げて、油を懸けて長男が火をつけて火葬にし、ガンジス川に流していました。そこで沐浴している人々が大勢居ました。ガンジス川はかなり濁っていました。鐘楼流し、カモメの餌やり、何でも有りの聖なるガンジス川と言った感じでした。今回は沐浴する観光客はいませんでした。が、沐浴する日本人観光客もいるとのこと。貧富の差が大きく、カースト制も現在でも存在しています。ガイドもカースト制は守り続けるべきだと語気を強めていた。12億人の社会保障は絵に描いた餅のようです。日本の50~70年前の状態のように思えました。日本がいかに素晴らしいか、和食が世界一美味しいかといつも感じています。日本国で、日本人、で幸せであります。有り難いです。・・・日本人向けに作ってくれたカレーインド料理は美味しかったです。・・・

第1日目

13:25 関西空港発→エア・インディア航空で→16:35 香港着→

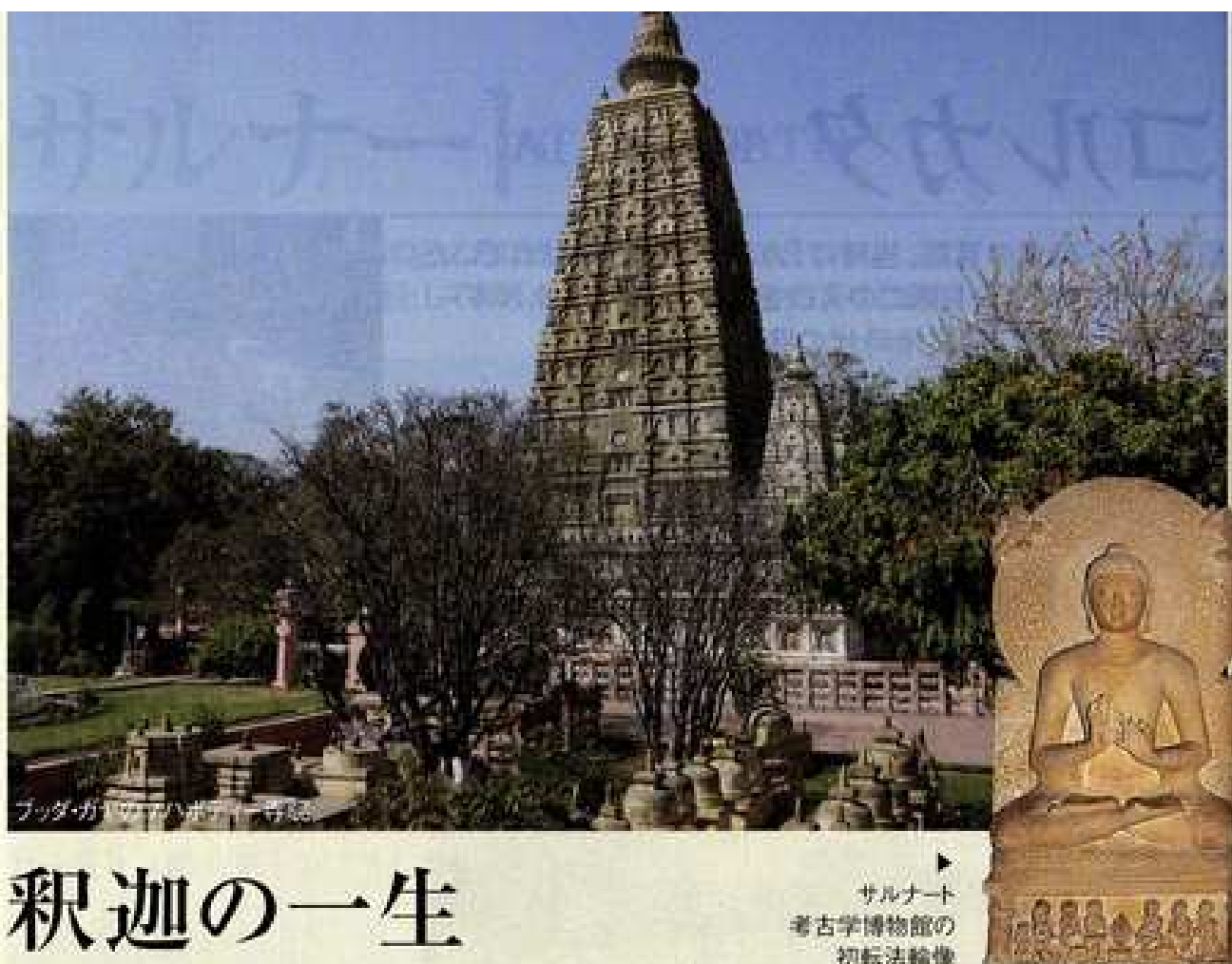
18:00 香港発→21:25 デリー着→ホテルへ

デリー宿泊



関西空港のロールケーキは空を飛んでました。

我々は2時間遅れのエア インディア航空にやっと乗り込んで香港経由でインドの旅に飛び立ちました。インドの飛行機は国際選も国内線も2時間遅れは想定内ということでした。あわてず騒がず飛行機の到着を待つしかありません。国内も飛行機で移動しないと時間が足りません。やはり12億人の人口も多いですが、国土も広いです。日本人の几帳面さと清潔さは忘れた方がよさそうでした。



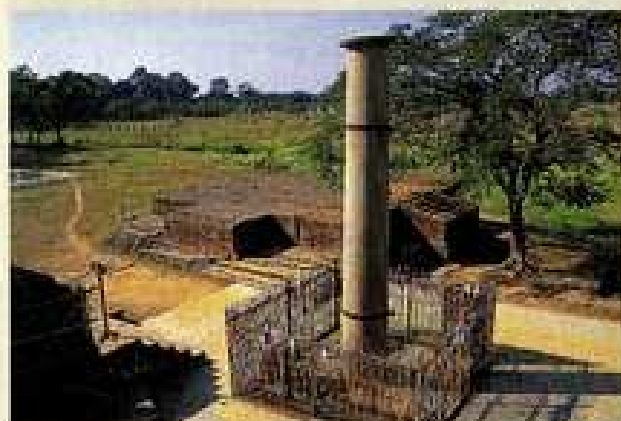
釈迦の一生

サルナート
考古学博物館の
初転法輪像

インドは、仏教が生まれた国。
北インドを中心に残る仏教聖地には、現在でも多くの巡礼が訪れる。
仏教はどのように生まれ、どのように広まったのか。釈迦の足跡をたどってみよう。

釈迦の生誕地 ルンビニ

釈迦はいまから2,500年前、インドとの国境近く、ネパール王国バステイー地方バタリア村で、シャーキャ族の王子として生まれた。釈迦は生まれて間もなく歩き、天地を指して「天上天下唯我独尊」と言ったという。



◀ルンビニに残されたアショカ王の石柱

釈迦修業の地 ラジギール

釈迦は王子の座を捨て、求道者の道を歩むためカピラバストゥの城を出た。向かったのは当時インド最強のマガダ国の首都で周囲を険しい山に囲まれたラジギールだった。

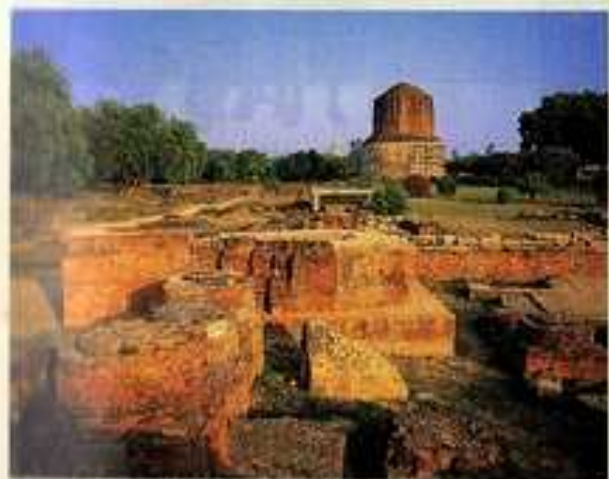
悟りを得た地 ブッダ・ガヤ

厳しい修行の末、ブッダ・ガヤの菩提樹の下で瞑想に入った釈迦は、ついに悟りを開いた。現在、釈迦が悟りを開いたとされる場所にはマハボディー寺院があり、菩提樹の下には釈迦が座した金剛座が置かれている。



初転法輪の地 サルナート

バラナシ(ベナレス)の郊外にある。釈迦はここで、かつてともに修業していた5人の僧に出会い、初めて法を説いた。現在はアショカ王が残したダメーク・ストゥーパが残っている。



▲サルナートの僧院跡とダメーク・ストゥーパ

釈迦が天界から降臨した地 サンカシヤ

釈迦の生後1週間で世を去った母マヤ夫人に説法するため、釈迦は天上界に昇る。念願をかなえた釈迦が3ヶ月後に地上に降りてきた場所がサンカシヤだった。

釈迦入滅の地 クシナガラ

80歳になった釈迦は、長い布教の末、ついに病んだ体をクシナガラの娑羅双樹の下に横たえ、静かな眠りについた。現在は釈迦入滅の地を記念する涅槃堂が建てられている。



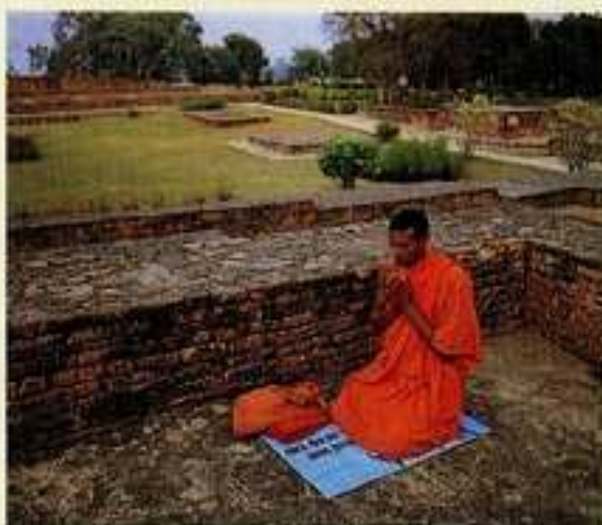
▲クシナガラにある涅槃仏

祇園精舎があった サヘート・マヘート

マヘートには釈迦が生きた時代にこの地を治めていたコーサラ国の首都ジュラーバヴァステイーの遺跡がある。1996年には関西大学の調査隊が発掘調査し、土偶女神坐像など、多数の遺物が発掘された。また、近郊のサヘートには祇園精舎跡があり、釈迦が長い間滞在して教えを説いたといわれている。



▲夕暮のブッダ・ガヤ



▲サヘート・マヘートの祇園精舎、香殿跡で祈るインド人僧

第2日目

08:30 ホテルで朝食後、バスで空港へ

10:30 デリー発→11:45 ベナレス着

ホテルで昼食後・・・サルナート観光 1.ダメーク・ストゥーパ 2.考古学博物館

3.ムルガンダ・クティール寺院

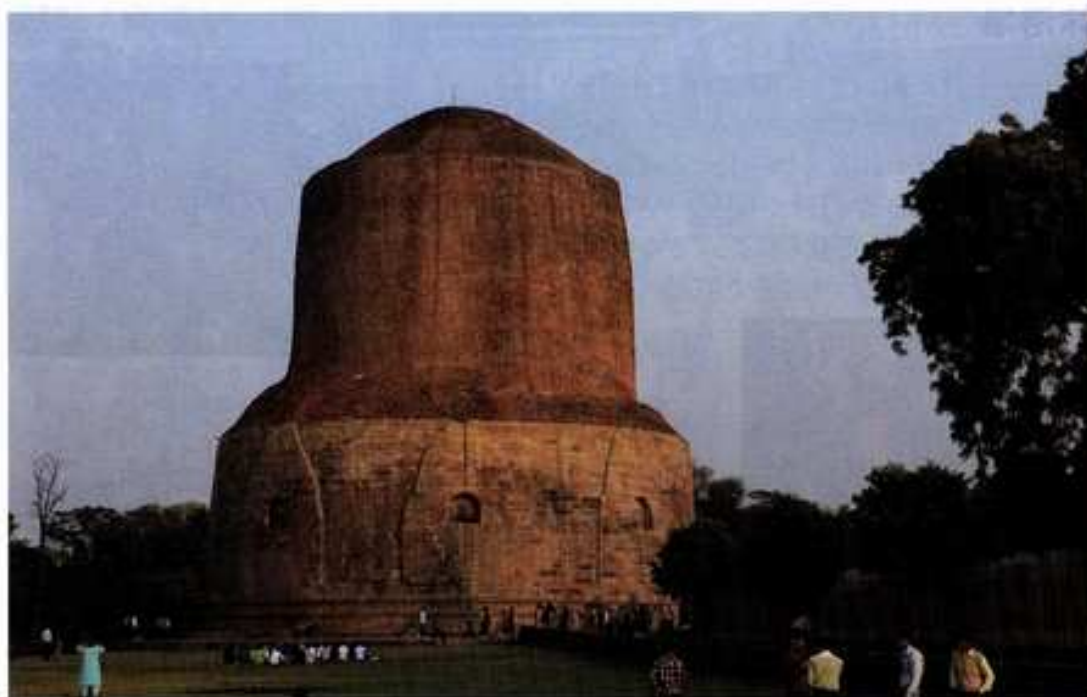
観光後、シルク店で買い物、妻は色彩豊かなスカーフを購入

18:00 ベナレスのホテルへ

ベナレス宿泊

サルナート SARNATH

ベナレスから北東に約10kmのところにある四大仏跡のひとつで、
ブッダが最初に説法をした地として知られている。世界中から多くの仏教徒が訪れる。



▲ダメーク・ストゥーパ

ダメーク・ストゥーパ

6世紀ころに造られた高さ40mを超える巨大な仏塔。一部破壊されているが、塔の基部全体に施された細かな幾何学模様がいまでも残っている。

考古学博物館

インドの国章にもなっているアショーカ柱頭の4頭のライオン像や初転法輪像など当地の出土品を展示している。彫刻の様式の変化を知るのが格好の博物館。

Column

インドの紅茶「チャイ」

インドの紅茶は甘〜い、甘〜いミルクティーで、「チャイ」と呼ばれる。牛乳と紅茶の葉をぐつぐつ煮て、砂糖をたっぷり入れてある。ショウガやカルダモン、シナモンが入ったマサラティーもある。日本ではとても飲めない甘さだが、あら不思議、インドの気候とぴったり合って、何とも言えないおいしさ。疲れたらチャイを一杯いかが？



▲チャイ



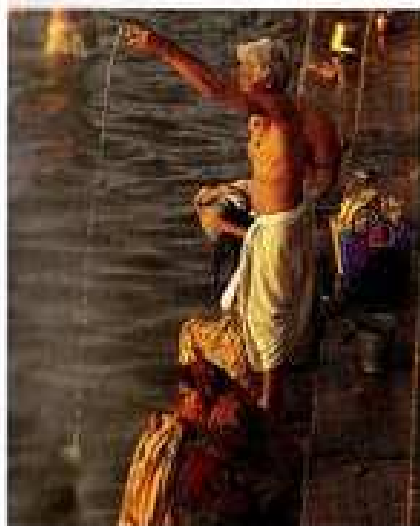
▲スパイス

バラナシ(ベナレス) VARANASI

ヒンドゥー教最大の聖地。町を流れるガンジス河で人々は歯を磨き洗濯をし、ここに遺灰を流す。聖と俗が混在する場所。

沐浴場

ヒンドゥーの教えでは、ガンジス河の水で沐浴をすれば、すべての罪を浄められるという。河の西岸には階段状の沐浴場(ガート)が約20あり、観光客はその様子をボートから見学できる。ガンジス河の水量は雨期・乾期によってかなり違うが、階段状なのでいつでも沐浴できる。



バラナシ・ヒンドゥー大学

旧市街の南側にある総合大学で、インドの民族文化の育成を目指して1916年に設立された。学内にあるインド美術館には、ヒンドゥー教のすぐれた彫刻や細密画が集められている。



▲バラナシ・ヒンドゥー大学内のヴィシュワナート寺院





ガンジス河・朝日・沐浴・鐘楼売り・沐浴・観光客の舟・

第3日目

早朝→舟（専用ボート）でガンジス河の朝日鑑賞と沐浴の見学

その後バスでベナレス市内観光 1.ヒンドゥー大学内のヴィシュワナート寺院

2.バーラト・マーター寺院 3.ドゥルガー寺院

ホテルに戻って朝食後、出発まで自由行動

10:00 バスでホテル出発し空港へ

12:25 ベナレス発→13:35 アグラ着

バスで市内レストランで昼食後・アグラ観光

1.世界遺産 タージ・マハル 2.世界遺産 アグラ城

途中、大理石の店を見学、象や仏像、テーブルなどの大理石商品を販売していた。

買うものはなかった。

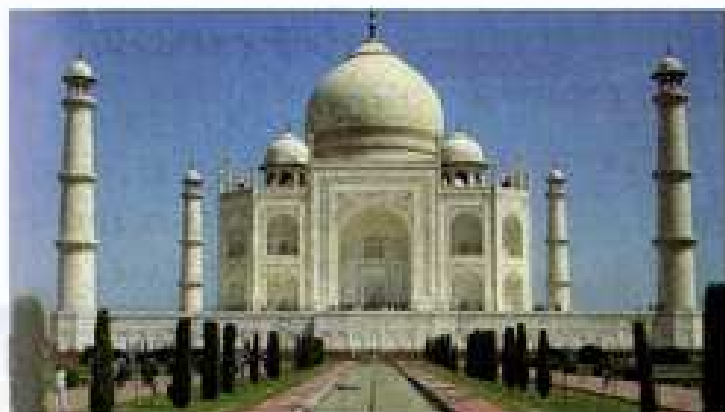
その後ホテルへ・到着後ホテルで夕食

アグラ宿泊



アグラ AGRA

シャー・ジャハーンが22年の年月をかけて建てたムガル帝国繁栄の象徴タージ・マハルで知られるインド観光のハイライト。



タージ・マハル

世界遺産

若くしてなくなった妻ムムタズのために建てた総大理石の霊廟。白大理石に施された象眼細工、左右対称の美しさはため息がでるほど美しい。

Column

黒大理石のタージ・マハル？

皇帝シャー・ジャハーンはタージ・マハル完成後、川の反対側に黒大理石で自分用の廟を造ろうと計画していたといわれている。しかし、彼は息子のアウラングゼーブによってアグラ城内に幽閉されタージ・マハルを眺めて過ごしたという。彼の死後、黒大理石の廟は造られることなく、いまでは愛妃の隣に静かに眠っている。



アグラ城

世界遺産

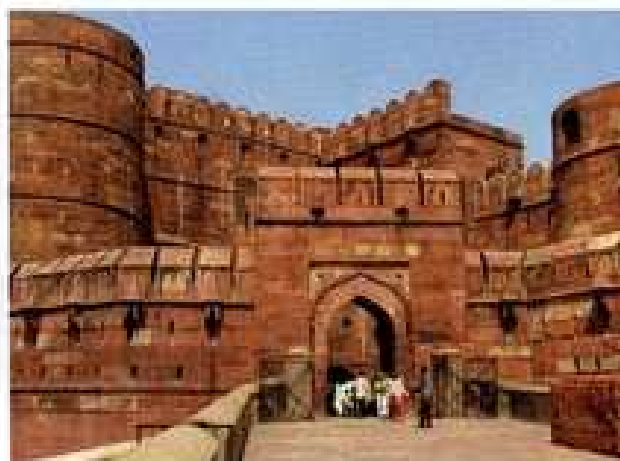
デリーのレッド・フォート(ラール・キラー)と並ぶ巨大な城。時の権力者アクバルの力をそのまま表しているような大きさと力強さをもった建物。

ファテプル・シークリー

世界遺産



アグラ市内から南西37kmの所にあるアクバル帝の城跡。預言者の言葉に従ってこの地に都を移した皇帝だったが、水不足のためにたった14年で再びアグラに遷都した。各宗教の融和を図ったアクバルの工夫が随所に見られる。



ヒンドウーの神々

インドでは全人口の80%がヒンドウー教徒。
ヒンドウーの神様は、寺院に限らず町のいたる所に姿を現す。
そんな神様たちのプロフィールを知っておこう。



シヴァとパールヴァティー

シヴァは破壊と再生の神でインドで最も人気がある(左)。パールヴァティーはその妃(右)。



ヴィシュヌ

ヒンドウーの3大神のひとりで維持神。さまざまなものに姿を変えることで知られる。



ラクシュミー

ヴィシュヌ神の妃で富と幸運の女神。理想的な妻の鏡で、蓮の上に坐る姿で表される。

ガネーシャ

太った体にゾウの頭のユニークな姿で人気がある磨売の神様。シヴァとパールヴァティーの子供。



ドゥルガー

パールヴァティーが変身したもの。悪魔と戦う。



ハヌマーン

インドの古典、「ラーマヤナ」に登場する猿の神様。



サラスヴァティー神

弦楽器を手にした姿で表される学問と芸術の女神。



街でゆったりと新聞をよむ店主



街を走り回る三輪タクシー



8つの世界遺産をめぐり、信仰心の薄い夫婦も、それぞれの寺院で深々と頭を下げて、手を合わせて健康と安寧を祈り続けました。2014年の師走にお祈りを捧げたのです。2015年は幸せ多い年となりましょう。皆さんの健康と幸せもお祈りしておきました。・・合掌・・

第4日目

早朝一バスで タージ・マハルと朝日鑑賞へ
ホテルに戻って朝食

08:00 バスでホテル発→ジャイプールへ

途中で世界遺産 ファティプールシクリ観光

ジャイプール到着後、市内レストランで昼食・・昼食後・ピンクシティー「ジャイプール観光」

1.世界遺産 アンベール城 2.風の宮殿 3.世界遺産 ジェンタルマントル

4.シティパレス

観光後、バティック店へ・・その後ホテルへ・・ホテルで夕食

ジャイプール宿泊

ジャイプール JAIPUR

ラジャスタン州の州都。ラクダが車を引いてのんびりと進み、女性たちの着る原色のサリーが砂漠に映える町。



シティ・パレス

ジャン・スイン2世が建てた豪華な宮殿。内部は博物館になっており一般に公開されている。



アンベール城

世界遺産

市の北側の小高い丘の中腹に建てられた城。ジャイプール遷都までここが藩王国の首都だった。頑強そうな外見とは裏腹に、内部は非常に繊細なつくり。城への足は名物、象のタクシー。



風の宮殿

奥行が非常に浅い5階建ての建物。彫刻を施した窓から夫以外には顔を見せてはいけなかった宮廷の女性たちが町を見下ろしていた。どの角度からも風が入るよう工夫が。



ウダイプール

ラジャスタン地方の女性▶



シティ・パレス

ビチョラー湖に面して建てられた壮大な宮殿で家具装飾品などを集めた博物館がある。また、一部は豪華な宮殿ホテルとして利用されている。

侍女たちの庭園

砂漠地帯にありながら、水の確保のために造られた人造湖のおかげで、この町は噴水と豊かな緑に囲まれている。この庭園もその一例。

ビチョラー湖

宮殿の西側にある。2つある島はどちらも元宮殿で、そのうちひとつは世界的に有名な「レイク・パレス・ホテル」になっている。

ジョドプール

メヘランガル城塞

インド有数の巨大な城塞。町を見守るかにように岩山の上に建つ。インド独立までの約500年の間、戦いの舞台となった。ここからの眺めは最高。



▲堂々とした城塞

Column

スパイス

スパイスはインド食文化の原点ともいえる。暑いインドでは食欲を増進させ、料理の腐食を防ぎ、薬効もあるスパイスは必要不可欠。食後の口直しに出されるひまわりの種のようなフェネル(ういきょう)など、スパイスはすべてが辛いとは限らない。もし、おみやげに買って帰るならガラムマサラがお勧め。何種類ものスパイスをミックスしており、どんなカレー料理にも使え、スプーン1杯で本場の味に。



ジャイサルメール

キャメル・サファリ

人気のキャメル・サファリはこの町から出発する。周囲にはアラビアンナイトの世界が広がる。

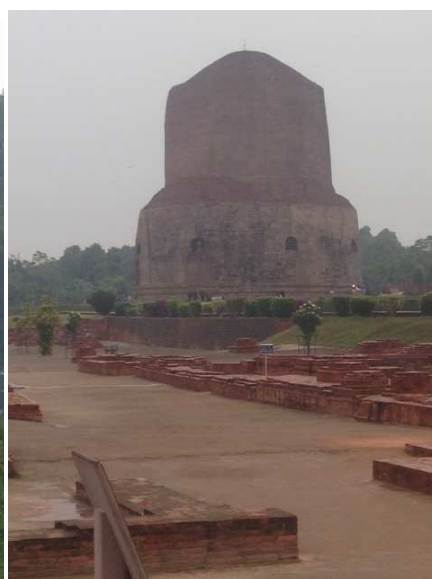
ハーベリー

かつての富豪たちが競って建てた、砂岩に繊細な彫刻を施した屋敷。旧市街に多く見られる。

ジャイサルメール城砦

世界遺産

12世紀ジャイサル王によって造られた黄金色の城塞。内部には王宮や寺院、ハーベリーや露店などがある。



カジュラホ

世界遺産

ヒンドゥー寺院の壁面を埋めるエロチックなミトゥナ(男女交合)像で知られる村。
生命感あふれる彫刻群は必見。



寺院群

月の神と称するチャンデラー王朝が10～11世紀にこの地に建てた寺院。イスラーム教の破壊の対象になり、現在では85あった寺院のうち20余りが残るのみ。シヴァ神を祭る高さ30.5mの巨大なカンダーリヤ・マハーデーヴァ寺院やミトゥナ像で基壇部周辺をぎっしりと埋め尽くしたジャガダンビ寺院がとくに有名。

寺院は西、東、南の3つのグループに分けられる。観光の中心になるのは西群で、一画には考古博物館もある。



Column

インド占い

インドでは占いが生活に密着していて、結婚相手や結婚式の日取りを占いで決めるほど。せっかくだからあなたも見てもらったら?手相占いのほか、誕生日から占うこともできる。ホテルでは、占い師をよんで占いコーナーを設けている所もあるので現地係員に尋ねてみよう。

第5日目

ホテルで朝食

08:00 バスでホテル発→空港へ

11:25 ジャイプール発→12:25 デリー到着

到着後、市内レストランで昼食・・昼食後、デリー市内観光

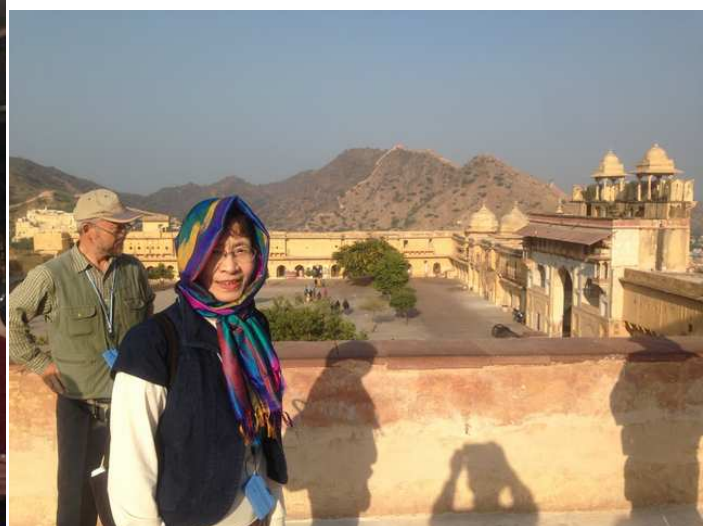
1.世界遺産 レッドフォート 2.世界遺産 フマユーン廟 3.世界遺産 クトゥプミナール

観光後、紅茶店へ

市内レストランにて中華料理の夕食後→空港へ

デリー DELHI

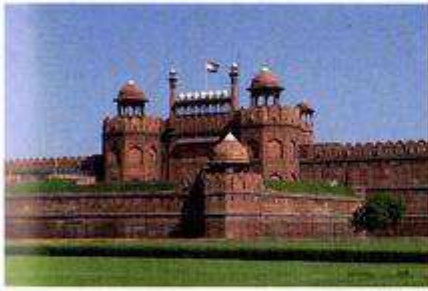
ヤムナー河西岸に広がる歴史深い町。
 大国インドの首都で整然とした街並みの
 ニューデリー、庶民の活気あふれる
 オールドデリーと、のどかな農村部の
 3つの顔をもつ。



レッド・フォート(ラール・キラ)

世界遺産

オールドデリーの中心的存在。第5代ムガル皇帝、シャー・ジャハーンが建てた巨大な城。城壁や主要な建物が赤砂岩で造られているためにレッド・フォート(赤い砦)と呼ばれる。



ラージ・ガート

建国の父、マハトマ・ガンジーが荼毘に付された場所に造られた黒大理石の記念碑。ヒンドゥー教の習慣に従い遺灰は川に流された。



ラクシュミー・ナラヤン寺院

ニューデリー一帯の繁華街、コンノートプレイス近くにあるヒンドゥー教寺院。ナーラーヤナ(ヴィシュヌ)とラクシュミーが祭られている。



国立博物館

歴史的遺産を多数展示したインドでも有数の博物館。ガンダーラ様式の繊細な仏像、イスラーム風の細密画など、時間をかけて見学したい。

フマユーン廟

世界遺産

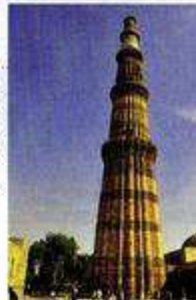
ムガル帝国の第2代皇帝フマユーンの廟。のちにタージ・マハル建築にも影響を与えた。



クトゥブ・ミナール

世界遺産

ヒンドゥー、イスラーム両様式が混ざった高さ72.5mの塔。隣にはインド初のモスク跡がある。現在塔には登ることができない。



ジャンタル・マンタル

コンノートプレイスの近くにある昔の天文観測施設。ジャイプールのマハラジャ、サワイ・ジャイ・シン2世によって1725年に作られた。インド各地にあり、ジャイプールのものがもっとも規模が大きい。



デリーは ①.オールドデリー、②デリー、③ニューデリー (英国が植民地時代に作った街) 今は3つ合わせてデリーと呼んでいる、インドの首都はデリーです。

ムガル帝国 人物小辞典

1526年、アフガニスタンからティムール(モンゴル)の血を引くバーブルが侵入し、デリーの新しい支配者になった。ムガル朝の始まりである。インド観光は、このムガル帝国の歴史をたどる旅といっても過言ではない。おもな皇帝のプロフィールを紹介しよう。

シャー・ジャハーン記▶
ムムタズ・マハル



初代 バーブル(1526～30年)
デリー北郊のバーニバットの戦いでローディー朝を破ってデリーの新しい支配者になった。しかしそのわずか4年後に死亡。

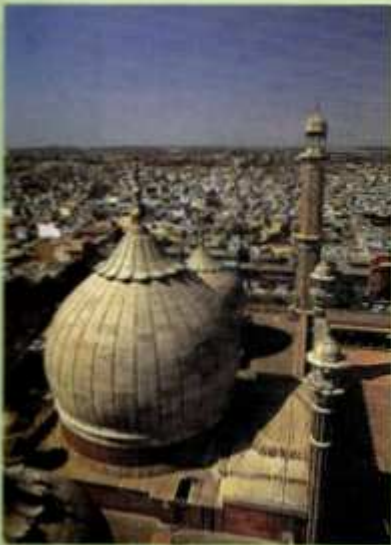
第2代 フマユーン(1530～56年)
在位10年でシェール・シャーの猛攻を受け、15年もの間亡命生活を送った。後にデリー奪還したが、その数カ月後階段から転落して死亡。

第3代 アクバル(1556～1605年)
わずか13歳で即位したが、的確な判断力で帝国を不動のものとした。アグラ城やファテプル・シークリーを築いた。

第4代 ジャハーンギール(1605～27年)
さしたる苦勞もせず皇帝の座に君臨した。芸術家肌で絵画や造園などを楽しんだ。

第5代 シャー・ジャハーン(1628年～57年)
タージ・マハルの創造者。後に息子の第6代アウラングゼーブの手により、アグラ城に幽閉された。

第6代 アウラングゼーブ(1658年～1707年)
デカン高原への勢力拡大に努めた。異教徒への課税や弾圧で知られる。



◀デリーのジャマ・マスジッド

23 : 15 デリー発→06 : 30 香港着 ・ ・ 07 : 45 香港発→12 : 05 関空到着
・ ・ 14 : 05 関空発 リムジンバスで→17 : 25 岡山到着

2014年締めくくりの海外旅行はお釈迦様の生誕の地、インドでした。師走の忙しい時期に出発しました。道路にゴミの山、それを牛が食べている。そして野犬が食べている。道路を牛が歩き糞をする。踏まないように歩かねば・・・バスもタクシーも車はボロイ・・・貧富の差が激しい。ネール元首相ヒンドゥー教のインド、ネール元首相の腹違いの兄弟イスラム教をイギリスがかついでパキスタンという国を作ったという。先進国は良いことを後進国にしたのだろうか？まあ、戦争のない世界がいつ来るのか？差別のない世界がいつ来るのか？・・・わからん・・・安寧に暮らしたい・・・最後まで見ていただいて有難うございました。・・・合掌・・・

インド 8つの世界遺産と聖なるガンジス河の旅 2014・12/13～18 6日間

RSK OB NOBORU TAKAYA 高谷 昇